

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社北斗様 ナーシングホーム北斗岩倉	階数	地上2階
建設地	岩倉市岩倉町南沢(東経136°57'12.00", 北緯35°02'21.00", 748, 748, 748, 748, 748)	構造	木造
用途地域	市街化調整区域、法22条地域	平均居住人員	65人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年11月27日
敷地面積	3,711 m ²	作成者	今井 芳史
建築面積	1,300 m ²	確認日	2025年11月27日
延床面積	2,534 m ²	確認者	今井 芳史

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 88%
③上記+②以外の 88%
④上記+ 88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>8.9%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0%</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社北斗様 ナーシングホーム北斗岩倉

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												2.7
Q1 室内環境												3.0
1 音環境												3.0
1.1 室内騒音レベル												3.0
1.2 遮音												3.0
1 開口部遮音性能												3.0
2 界壁遮音性能												3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												3.0
1.3 吸音												3.0
2 温熱環境												2.6
2.1 室温制御												3.0
1 室温												3.0
2 外皮性能												3.0
3 ゾーン別制御性												3.0
2.2 湿度制御												3.0
2.3 空調方式												3.0
3 光・視環境												3.0
3.1 昼光利用												3.0
1 昼光率												3.0
2 方位別開口												3.0
3 昼光利用設備												3.0
3.2 グレア対策												3.0
1 昼光制御												3.0
3.3 照度												3.0
3.4 照明制御												3.0
4 空気質環境												3.8
4.1 発生源対策												4.0
1 化学汚染物質												4.0
4.2 換気												3.3
1 換気量												3.0
2 自然換気性能												3.0
3 取り入れ外気への配慮												3.0
4.3 運用管理												5.0
1 CO ₂ の監視												3.0
2 喫煙の制御												3.0
内装、天井裏及び家具等をF☆☆☆☆とする												4.0
自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上												3.0
建物全体が禁煙												5.0
Q2 サービス性能												3.1
1 機能性												3.6
1.1 機能性・使いやすさ												4.4
1 広さ・収納性												4.0
2 高度情報通信設備対応												5.0
3 バリアフリー計画												3.0
1.2 心理性・快適性												3.5
1 広さ感・景観 (天井高)												3.0
2 リフレッシュスペース												4.0
3 内装計画												3.0
1.3 維持管理												3.5
1 維持管理に配慮した設計												3.0
2 維持管理用機能の確保												4.0
個室:13㎡/人												3.0
天井高:2.55m												3.0
床材:塩ビシート、風除室あり、外壁面水切り、床段差なし												3.0
2 耐用性・信頼性												2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振												3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0
2 免震・制震・制振性能												3.0
2.2 部品・部材の耐用年数												3.0
1 躯体材料の耐用年数												3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔												3.0
2.4 信頼性												2.6
1 空調・換気設備												3.0
2 給排水・衛生設備												2.0
3 電気設備												3.0
4 機械・配管支持方法												3.0
5 通信・情報設備												2.0

3 対応性・更新性					0.2	2.6	0.29	2.4	2.4	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり					0.3	1.8	0.31	1.8	1.8	0.50	
1 階高のゆとり						1.0	0.60		1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ					3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性			②			3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30		-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			独自③			1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④			3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④			2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上						2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性											3.3
LR1 エネルギー							0.40				3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.56	3.0	5.0	0.30				5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.85	3.0	2.7	0.30				2.7
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00				
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50				
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価											
4.1 モニタリング						3.0					
4.2 運用管理体制						3.0					
LR2 資源・マテリアル							0.30				3.7
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15				3.4
1.1 節水					3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.9	0.63				3.9
2.1 材料使用量の削減						-	-				
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.26				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②			3.0	0.22				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自			3.0	5.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自			3.0	5.0	0.26			
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.3	0.22				3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.5	0.68				
1 消火剤											
2 発泡剤(断熱材等)						4.0	0.50				
3 冷媒				ODP=0, GWP=3	3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境							0.30				2.9
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率88%		3.4	0.33				3.4
2 地域環境への配慮					0.3	2.6	0.33				2.6
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善						2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減			独自	雨水流出抑制対策を実施		4.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25				
3 交通負荷抑制			独自	駐車場の出入口2ヶ所設置、乗入幅が同時通行可能		4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮					0.3	2.7	0.33				2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40				
1 騒音			独自			3.0	1.00				
2 振動			独自								
3 悪臭											
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40				
1 風害の抑制						3.0	0.70				
2 砂塵の抑制						1.0					
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30				
3.3 光害の抑制					0.2	1.6	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						1.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社北斗様 ナーシングホーム北斗岩倉

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:8.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社北斗様 ナーシングホーム北斗岩倉

計画上の配慮事項	
総合	外皮性能を向上させ施設内の温熱環境及び一次エネルギーの消費量の抑制に配慮している。
Q1 室内環境	外皮性能の向上及びシックハウス対策に配慮している。
Q2 サービス性能	天井高に余裕を持たせ、快適性・対応性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地境界側に緑地帯等の空地を確保し、周辺環境との関係に配慮している。
LR1 エネルギー	建物外皮の熱不可抑制に配慮している。 LED照明を採用している。
LR2 資源・マテリアル	F☆☆☆☆建材を採用している。
LR3 敷地外環境	道路側に対して、積極的に植栽し、街並みの形成、緑化に努めている。
その他	